

市長から市民のみなさんへ

73

山形県野田市長 白井 博文

「思いやり」「優しさ」にあふれた "一行詩"

2 ページにありますように、今年も「女と男の一行詩」の入賞作品が決定しました。総数 4,331 点の作品の中には人権学習の一環として取り組んだ学校からの応募もあったと聞いています。10 回の節目を迎え、本市発の文化事業として全国的にもすっかり定着した感があります。

「男も女も適材適所 増える役割 減る差別」

入賞作を絞り込む二次審査に私も参加しましたが、上記の最優秀作品は、「ユーモア」「リズム」「(言葉に対する)センス」「社会的視点」といった審査基準にぴったりの素晴らしい作品でした。また、今回の応募作品全般にわたっての所感ですが、異性に対して「こんなことをしてもらいたい」と要望するだけでなく、「何かしてあげたい」と "手を差し伸べる" ような詩が数多くあったような気がします。ギスギスしている今の社会で生きる人たちが、男女を問わず、人間関係全般について「思いやり」「優しさ」を求めていることのあらわれなのかもしれません。

心に秘めた想いを文字にした一行詩 ～ 次は日常生活の中でその詩の内容を実践していただく番です。それは決して無理な注文ではないと、一行詩を口しながらそう思うのは私だけではないでしょう。

「エプロンの 似合う亭主も 悪くない」

「ふるさと納税」で市に活力を

4 月から通称「ふるさと納税」がスタートしました。これは、例えば都会で暮らしている方が、生まれ育った自分のふるさとに寄附を行えば、それを住所地での納税とみなするという制度です。

本市へ「ふるさと納税」をしていただく方にどんな "心" のお返しができるのか、遠く離れて暮らし、時折、"ふっ" とふるさとのことを思い浮かべ、望郷の念をつのらせているような方々の "心" にどのように近づくか、この制度の鍵を握っているのはそのあたりではないかと考えています。

一方で近隣や本市にお住まいの方に対してもお願いできるようなサポーター制度の確立も急ピッチで進めているところです。

詳細が決まりましたら、広報等でみなさんにお知らせします。その際は、都会で働いている息子さんや近隣の方への働きかけをぜひ、お願いしたいと思っています。

「メタボ健診」を受診しましょう

これも 4 月からの新しい制度ですが、「特定健診」(メタボ健診) がはじまりました。最近、いわゆる生活習慣病が深刻化していますが、その兆候を "おなか周り" で判断し、病気の予防につなげるというものです。

制度を導入した国の思惑は、医療費の抑制に違いないのですが、健診を受ける個人個人にとっては、生活スタイルの改善、大病予防、つまりは元気で長生きしていくことに直結するバロメーターとなるものです。

国保の方は、市役所から通知が行きます。ぜひとも受診していただき、健康づくりに役立てていただきたいと思います。

対話の日

【いずれの会場も 19:00 から】



6月12日(木) 県漁協殖生支店ふれあいセンター
6月26日(木) きらら交流館